

京都府立医科大学医学部医学科アドミッションポリシー（入学者受入方針）

京都府立医科大学は、明治5年(1872年)栗田口青蓮院に設立された療病院を起源とする日本最古の医科大学の1つであり、公立大学では唯一の旧制医科大学である。その長い歴史の中で、国際的視野に立って知を創造するとともに継承・発展させ、新たな課題に立ち向かう使命感を校風の核とし、国内外に質の高い教育・研究成果を還元してきた。

このような歴史と伝統に磨かれ形となったのが本学の掲げる教育理念、「人間愛」、「地域貢献」、「国際的視野の涵養」である。この理念に基づいて、幅広い教養、高度の専門的な知識・技術及び高い倫理観を備え、国際的な視野に立って医学研究・医療に取り組み、その成果を地域から世界へ発信できる人材の養成を行ってきたところである。

本学では、今後とも社会に貢献できる優秀な人材を輩出し、現代社会の要請に応えるため、次のような学生を求める。

- 1 生命及び人間の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を培いながら、人の命に深く関わり健康を守るという医師・医学者の職責を十分に自覚できうる人間愛にあふれ高い倫理観を持った人を求める。
- 2 「世界トップレベルの医学を地域へ」という本学の理念のもと、「学問の都」京都で国際的な視野に立って医学を学ぶことによって、地域の医療に最善を尽くすと同時に、この京都の地で次世代の医学・医療を見据えた研究を遂行し、「トップレベルの医学・医療を京都から世界へ」発信できる探究心と向上心に富んだ人を求める。
- 3 本学は多数の関係病院を有し、これらの病院との強い教育連携、研修連携をもとに、人々の健康を守る高度な専門家、医療人を育成している。これらの人材育成を通じて、医療のありかたや現状・課題を理解しながら地域医療に貢献する熱い志を持った人を求める。
- 4 本学は、自らの意思で医学を修め感性を磨き人格を陶冶する自己研鑽の場である。医療の質の向上と医学の進歩のために絶えず省察し、他の医師・医療者・研究者とともに研鑽しながら、生涯にわたって向上を続ける意欲と態度を有するような強い意志と自ら考え学ぶ力を持った人を求める。

【入学者選抜の方針】

高等学校等で学習する全ての教科が医学科教育の土台になるため、各教科において基礎学力を幅広く身につけておくこと。

その中でも、数学・理科、および国際公用語となっている英語の基礎学力は必須である。さらに、人との交流が基盤となる医療と医学研究の場では国語力が重要である。

入学試験では、一般入学試験と推薦入学試験を実施しており、筆記試験によって学力および論理的思考力などを評価し、面接では医学・医療への志や意欲を評価する。